

月田秀子の昨日、今日、明日・・・

## ナルシス

日中、お日様を背中に受けながら、庭の草引きを始めた。草の間から小さな芽を出している水仙を発見。散歩コースの家々の庭にはもうとっくに咲いている。日当たりのよい所に移してあげようと根を掘り始めた。何とそばのバラの遅しく伸びた根のすきまのまだ下に球根はあるようだ。とうてい掘り出せそうにもない。水仙の根だけでなくバラの根も傷つけてしまいそうだ。引っ越しは断念して、土をかぶせた。少しでも日が当たるように周りの草を抜いた。生まれたところが悪かった。それでも必死に芽を出し、地上に向かって伸びてきた。太陽の下で咲く自らの姿を思い描きながら。

小さい頃読んだギリシャ神話を思い出した。美少年ナルシスは、ある日、泉の水面に映る自分の姿に恋をし、手を伸ばしたところ、泉にはまって息絶えた。その泉のほとりには、美しい金色の水仙が咲くようになったという。

咲き始めた白梅の香りに空を仰いだ。かがんだ腰はなかなか伸びてはくれない。思わず「イタタッ」とあげた声に、鳥が驚いて羽音をたてて飛び立った。

それ以来、あの水仙のことが頭を離れない。地面に出たところで力尽き、花を咲かせることなく息絶えてゆく水仙の姿が自分に重なって見えるのだ。私の一生は一体何だったのだろうか？

フアドを歌う時、私は生きていた。確かにその時は血をたぎらせ、こみ上げる想いに閉じた目は熱くなった。歌う機会の少なさは、私を飢餓状態に陥らせ、歌いたい思いに拍車をかけた。ああ、そんな時もあった…。

私から一番時間を奪ったのは、私の歌を聴いてくれる人を探し出し、出会いの場を確保し、その情報を伝える作業だった。そのことなしに私の歌手活動は成り立たない。歌手、マネージャー、プロデューサーそして事務員、一人で何役もこなさなければならなかった。何よりも健康な体に産んでくれた両親に感謝した。しかし、それがアダになったのだろうか、50代も半ばが過ぎた頃から、落ち込みの激しい日々との戦いが始まった。

人前に出るのが怖い。生きてゆく気力が失せてゆく。体中が痛い。寝ても地獄、起きても地獄の日が続いた。食べ物がのどに通らなくなり体重が激減した。内科、脳神経科、神経内科、整形外科、リウマチ科、カイロプラティック、整体、鍼灸院、歯科、様々な医院を転々とした。最終的に、インターネットで探し出した病院で「うつ病」と診断された。闘病を始めて2年が過ぎたころ、東京から少し離れた藤沢の片田舎に引っ越した。間もなく、半年ほど待たされた病院で、「線維筋痛症」と診断された。全身の痛みの原因はそこにあった。

心身に変調をきたしてから失速しながらも、私は歌い続けた。不思議と歌っている時は、痛みはどこかに隠れてくれる。辛かったのは歌い終わってからのファンの方たちとの懇親の場だった。軋むような体中の痛みをこらえて努めて笑顔でファン達と接した。それでも耐えられない時は、そっとその場を離れ、誰もいないところで自分の不甲斐なさに泣いたこともある。病名がついたことで、やっと救われる思いがした。病院からの帰り道、私は泣いていた。その時から、姿が見えた病気との闘いが始まった。

## 線維筋痛症

「線維筋痛症」を苦しむ日本テレビの女性アナウンサーが自殺をしたという二年ほど前のショッキングなニュースを覚えておられる方もいるだろう。それを機に、現代の難病の一つとして日本でも注目され始めた病気である。自らの命を絶ってしまいたいと思うほどの激痛が襲う、しかし、死にいたる病ではない。神経伝達の誤作動がその「痛み」を引き起こすのであって、身体的な疾患ではない。その2点が何よりも「救い」ではある。ただし、完治するものではない。そこで再び暗澹たる思いに引き戻される。しかし、私の場合は、「ガバペン」という抗てんかん剤でもって、痛みを抑えることに今のところ成功している。薬を飲み忘れない限り、痛みからかなり解放される。そのことは、私の萎えていた気持ちをかなり立ち直らせてくれた。

100年に一度という不況の中で、いやどんな時代にも、逆境の中で必死の思いで生きてゆこうとする人たちの姿がある。思うようにならない人生に翻弄されながらも、泣き、嘆き、傷つけあい、そして、いたわり合い、笑い飛ばしながら、生きてゆく私たち。確実に「死」に向かいながら…。ああ、何ていとおしいだろう！

昨日は東京は雪だったという。ここ藤沢は冷たい雨が庭の白梅を散らしていた。ピンク色ががくが目立つようになった梅の枝に薄日が差してきた。にわかには活気づく景色たち。

## アゼリア大正でのコンサートへ向けて GO!

### 井本良子さんへの手紙

冬に逆戻りしたような寒い日が続きますが、お元気でお過ごしでしょうか？

私の体調も、薬のお蔭でめっきり良くなってきました。まるで、昔の元気さを取り戻したかと思えるような日があったり、また地獄のような痛みに襲われたり、でも確実に元気な日が続くようになりました。まあ、「線維筋痛症」は完治する病気ではなさそうですので、薬と上手に付き合いながらやっつけていこうと思っています。

夕べ、夢を見ました。東京でのコンサートの夢です。開演前に、化粧もしない状態で、会場のロビーで開場を待っている人たちの前で、質問を受けているシーンでした。なぜか関西の昔からのファン顔ぶればかりでした。京都のNさんが、「月田さんは、私たちの要望する歌を歌っていただけるのでしょうか」と質問します。私は「記憶力も悪くなってきている状態ですが、私自身歌ってみたいと思う曲は歌ってゆきたいと思っています。」と答えます。羽虫野のUさんの質問が続きます。「最近月田さんはコンサート活動を休止しておられるようだが、関西でのコンサートを是非再開してほしい。こうして大阪から東京まで聴きに来るのも正直言って体力的にも辛いので」。私は言葉に詰まり「この件に関しては、後日、文書でお答えさせていただきます。それでは、これから化粧しなければならぬので、失礼させていただきます」と言って、楽屋へ向かいます。これから化粧をして、かつらはいいとして、つけまつげを付けて、歌手月田秀子に大変身しなければ、ああ、開演まで10分しかない。

そこで目が覚めました。

コンサートを主催、企画するのは、今の私には荷が重すぎる。ああ、どうしたらいいのだろう。天井を見つめながらため息をつきました。そして、すぐに貴女のことを思い出しました。一生懸命準備し、お客さんを集めて歌う場を作ってくれている人が、それを続けてきてくれている人がいる。誰よりも親身になって私の歌手活動を支えてきてくれている人、私は何と大きな財産をもっているのだろう。にも拘らず、体力に自信がないとか、精神的な負担になるからとかいって、それから逃げようとしていた自分の愚かさに気が付きました。

良子さん、ごめんなさいね。あなたの気持ちを受け止められなくて、どんなに歯がゆい思いをされていたことでしょう。

こう思えるようになったのも、体調が良くなってきた兆しなのでしょう。

もし、今からでも間に合うようでしたら、大正アゼリアでのコンサートをよろしく企画してください。貴女そして聴きに来て下さる方々に、月田の精一杯のメッセージを伝えたいと思います。

2009年2月18日

月田秀子

ほどなく井本さんから、電話があり、大正アゼリアは、仮押さえのままでキャンセルはしていない。やる気になってくれて心からありがとう。月田さんは、ファドでも何でもいい自分の歌いたい歌を歌ってくれればよい。がんばって動員するからね。との元気な声が返ってきた。大阪の皆さん、楽しみに待っていて下さいね。

## アマリア・ロドリゲス没後10年

アマリア・ロドリゲス没後10年に当たる今年、日本ポルトガル協会として何かを企画したいとS女史から相談された。時のたつことの速いことに今更ながら驚く。

アマリア・ロドリゲスの晩年に発刊された「詩集」を開く、「カウド ヴェルデ」の日本語訳本「歌いながら人生を」を頼りに読み進める。彼女の胸に広がっていた孤独の世界が、私の心を捕えて離さない。詩の中で、野の花に、風に、月に、心を放ち、たわむれる姿は、痛々しく、涙に滲んだ詩の一句が次々と浮かんでは消えてゆく。

悲しみの谷間に突き落とされながらも、「自分が哀れで」という詩の中で、彼女は書いている。「誰かが私を愛してくれるなら 私の何かは生き続ける」。その一節は、初めてアマリア・ロドリゲスの家を訪れたとき、帰り際に交わしたお別れのキスの前に、「あなたが私の歌を歌う限り、私は生き続けることができるのね」というアマリアの言葉に重なる。そのことは、私の心を熱くし歌い続ける力を湧き起こしてくれる。私も目をつぶり泣きながら歌ってゆこうと思う。アマリア、あなたのファドを。

## 改めて会員みなさまへ

「月田秀子コレクション VOL.1」は、会費のご納入をいただいた250名近い皆様にお送りして、3月14日をもって発送を終了させていただきました。こんなにたくさん、私の「歌」を楽しみにして下さっている方がいらっしゃることは、私の励みになりました。これを機会に、会報は、今後、基本的に今回会費をご納入いただいた方を対象に発送させていただくことにしました。もし、今後も会報を購読ご希望の方で会費のご納入をすまされていない方は、ご一報ください。今回から、印刷ではなく、以前のように全くの手作り作業に戻ることにいたしました。私なりの経費削減作戦です。

これからも、発信し続けます。どうかこのマイナーなファドを携え、性懲りもなくファドを歌い続け、ファドに生きることを己の拠って立つところと信じて疑わない月田をお見守りください。そして、時々でいいですから、お声を聞かせて下さい。お顔を見せて下さい。

## 月田秀子生音ファド・ライブ募集中

点をつなげればあなたの街にたどりつけるはず・・・

ファドの魅力は、何といても「生音」で伝わってくるギター、ポルトガルギター、そしてヴォーカルの響きに身を委ねながら聴くところにあります。そこにワインがあると完璧！

ファドの本場リスボンでは、アズレージョと呼ばれる絵タイルに囲まれた石造りのレストランや居酒屋でファドは歌われています。月田はいままで、ライブハウス以外に、酒蔵とか、蔵、倉庫、ギャラリー、美術館、レストラン、バー、居酒屋、旅館、日本家屋の広間、古い洋館のサロン等で歌ってきました。そしてそんな小さなスペースでのライブを、これからも続けてゆきたいと思っています。小さなライブでも点をつなげれば、あなたの街までたどり着けるはず。

生音での限界は、響きのいい会場で100名位でしょうか。そんなファド・ライブをしてみたいと、ご希望の方は、下記まで、FAX、E-mail 等でご気軽にご相談、ご一報ください。月田秀子ファド倶楽部にて登録、点がつながった時点でご連絡申し上げます。それまで何年か時間がかかる場合もあります。何よりも情熱を失わないことが肝要です。月田は辛抱強くあなたの夢の実現を信じ待ち続けます。

\* 湘南へ引っ越しました。畑に囲まれた農家の庭先の小さな一軒家です。

<新住所> 〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原 1936-1 TEL/FAX0466-47-3860

## 月田秀子のスケジュール

4月 7日 (火) 四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」\*要予約 03-5276-2432

8日 (水) サウダーデの夜 VOL. 66 ライブチャージ : 2,500円

開場 : 18:00 ①20:30 ②21:30 ③22:30

♪日本で初めてのファドのお店でのライブ、給タイルに囲まれた素敵な空間、ポルトガル料理、行き届いたサービス、ともども好評を頂いています。

4月 9日 (木) 麻布十番「ア・タシカ」\*要予約 03-3455-2406

NOITE DE FADO VOL. 6 ライブチャージ : 2,500円

開場 : 18:00 ①20:00 ②21:00

♪6回を数えた「ファドの夜」ですが、今回をもって月田は当分お休みをいただきます。

4月18日 (土) 大船「パラッツオ ヴィオラ」\*要予約 0467-44-4005

開場 : 17:00 開演 : 18:00

料金 : 7,000円 (ディナー、フリードリンク、チャージ込)

♪大船の素敵なイタリアンレストランでのファドです。普段のライブよりかなり早い開演時間です。

4月25日 (土) 恵比寿「カーザ・デ・ケージョ」\*要予約 03-3473-5525

開場 : 18:30 開演 : 19:00 料金 : 5,000円 (ドリンク・チーズ・パン付き)

♪会員のMr.Pipe こと斎藤敏明さんの15名ほどのチーズバー。和気あいあいとしたムードの中でのファドライブです。

5月 6日 (水・祝) 四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」\*要予約 03-5276-2432

昼下がりのファド Vol.1 開場 : 12時 開演 : 1時半 ライブチャージ : 2,500円

♪お手ごろで、お値打ちのあるポルトガルランチをご用意しています。「四谷駅」麴町口から3分、階段を降りるとそこはポルトガル。

5月 7日 (木) 四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」\*要予約 03-5276

サウダーデの夜 VOL. 66 ライブチャージ : 2,500円 開場 : 18:00 ①20:30 ②21:30 ③22:30

5月9日 (土) 鎌倉「生涯学習センターホール」\*チラシ参照 お申し込み : 046-873-8081

開場 : 18:30 開演 : 19:00 チケット : 3,500円 (全席自由)

♪スレazyのコンサート会場での、ノーマイク完全生音でのコンサートです。初夏の夜をファドでお過ごしになりませんか?

6月 2日 (火) 四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」\*要予約 03-5276-2432

3日 (水) サウダーデの夜 VOL. 67 ライブチャージ : 2,500円

6月13日 (土) 大阪・南方「三裕の館」 \*要予約 06-6304-1745

開演 : 20:00 料金 : 5,000円 (オードブル・ワイン付き)

6月14日 (日) 大阪・大正「きまぐれコンサート Vol. 12」 問合せ : 06-6552-7053 (昼)

開場 : 14:30 開演 : 15:00 チケット : 前売り 3,500円

6月15日 (月) 神戸「サロン・ド・あいり」 \*要予約 078-241-1898

開場 : 18:00 開演 : 19:00 料金 : 5,000円 (料理・ドリンク付き)